

2024 年度総会発言録

(司会小澤)

それでは、ただいまより 2024 年度の計測会総会を開催いたします。最初に計測会会長の挨拶です。寺倉さんよろしく願いいたします。



(会長寺倉)

みなさん、こんにちは。会長の寺倉でございます。総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。平素は計測会の活動にご理解とご賛同賜り、厚くお礼を申し上げます。挨拶の途中でございますが、お手元にお配りの資料がございます。3 ページぐらいをめくっていただきますと出席回答者のコメントがリストアップしてあります。このコメントを見ると心温まるというか、ご高齢の方で病気と闘って見える方もありますし、健康でいろいろなところで活躍されている方など様々なコメントでございますが、こういうのを読むと皆様の計測会に寄せる思いを強く感じます。

挨拶に戻りまして、本日のご来賓の方がお見えになります。ご紹介をいたします。名古屋工業大学からは副学長であり理事の井門様、物理工学科応用物理分野からは分野長の渡邊様、本日はお忙しい中にもかかわらずこの会場に足をお運びいただきました。お礼を申し上げます。また後ほど元学長の鶴飼先生もお見えになる予定です。

さて、この総会でございますが、恒例により対面の会場とオンラインを併用しております。この後、講演会がございますが、講演会と合わせると総勢 70 名余りの方にご出席のお申し出をいただいております。遠くは北海道札幌から、それ以外にも関東からなどさまざまな地方からお申し出いただいて、中には昭和 39 年計測工学科の第 1 回卒業生の大先輩の方など、本当に多数の方にご参加を頂いております。ありがとうございます。

さて、この計測会でございますが、かつては計測工学科、その後は計測系の出身者を母体としておりましたが、今では計測系という呼び方もなくなってしましまして、残念ながらですけれども、応用物理分野を卒業された方が新たな会員になっています。

次に会の活動をご紹介します。これは第一にいうまでもなく、会員相互の親睦を深める取り組みでございます。この総会がその取り組みの一つです。役員は今日ここに 10 名とズームで 2 人参加しておりますが、12 名の役員が一丸となって取り組んでまいりました。

この対面の会場ではこの後、懇親会もごございます。ぜひお楽しみください。もう一つの会の活動をご紹介します。これは学生に役立つということを掲げております。その活動の一つをご紹介します。昨年度 2023 年度から新たな取り組みを始めています。それは海外で研究発表する学生に支援金を給付するという取り組みでございます。

狙いは学生の海外の人との触れ合いやコミュニケーションが少しでも増えればとの思いを込めております。対象は応用物理分野の研究室で修士課程、博士課程に在籍する方です。毎年度 2 名の方に給付をいたします。1 人あたりはささやかなんですけども、5 万円を給付いたします。実績をご紹介します。2023 年度博士課程前期に在籍されておりました吾妻真光様に給付をいたしました。なお、受給された方は計測会に海外での経験などを寄稿いただくことになっておまして、吾妻様からも寄稿文をいただいております。吾妻様は初めての海外ということもあり、その寄稿文を読ませていただくと高揚感に溢れていることがバッチリ感じられます。そのほんの一部ですけれども、ご紹介をいたします。読みますので、お聞きください。

この度、計測会から海外研究発表支援金をいただきました。

2023 年 5 月 29 日から 5 日間にわたって開催された European Materials Research society に参加いたしました。学会の開催地はフランスのストラスブールで、昔ながらの建築様式のヨーロッパらしい建物建物があふれる街です。私は海外渡航すら初めてでしたので、さらに英語で研究発表を行うとなると、不安がなかなか頭は離れませんでした。

それでも列車を降り宿泊先に向かって歩いた時には、ストラスブールの美しい町並みが心を躍らせてくれました。私の研究分野は、原子スケールでのコンピューターシミュレーションです。この学会は、2023 年で 40 周年記念だったようです。学会期間中の昼食にコース料理が提供され、最終日の夜には開場前の広場で酒や食事が振るまわれました。毎度現地の料理が楽しめたことに加え、参加者同士でのコミュニケーションが取れる機会も多く、学会と周年記念が重なったのは幸運だったと感じております。

と続きます。

一部の抜粋でございましたが、全文は計測会のホームページに掲載しております。

この取り組みはまだ始まったばかりでございますが、これから定着するようにとり組んでまいりますので、会員の皆様、ぜひご支援のほどよろしくお願いを申し上げます。

もう一つの会の活動をご紹介します。恒例の計測会賞でございます。今年も去る 3 月 26 日、卒業式の日に合わせて授与いたしました。受賞されましたのは坂本悠斗様でございます。この賞もごこれから回を重ねることで、賞の価値を高めていきたいと思っております。さて、この総会の後、恒例の講演会がございまして。今年の講師は去る 3 月にここ名古屋工業大学を退職されました市川洋名誉教授でございます。市川先生は計測会の会員で計測工学科昭和 56 年のご卒業です。ご期待ください。この講演会は応用物理分野に共催いた

だくとともに、名古屋工業会に後援をいただいております。ありがとうございます。
ということで最後になりますが、皆様と皆様のご家族のご健勝とご多幸を願いまして、総会の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。続きまして、来賓の方々からご挨拶をいただきます。
はじめに名古屋工業大学副学長井門様、よろしくお願いいたします。



(井門副学長)

皆さんこんにちは。名古屋工業大学で理事、副学長を務めております井門でございます。本来は学長がこの会に出席されてご挨拶をする予定だったんですが、あいにくご都合が悪いということで、私が代わりに挨拶させていただきます。

私自身も短い期間ではございますけれども、機械工学科の計測系プログラムという時代に必修科目の担当しておりました。一部の学生さんはその講義を受けていらっしゃると思いますし、あと先ほどご紹介ありました OB の方の中に研究分野で運営者の方がいて、学会等でお世話になった方もいらっしゃいます。

この計測会ですけれども、計測工学科の卒業生から始まりまして、とても長い歴史を持った単科会であるということで、非常に多くの卒業生がおられるという認識でございます。本学の OB それから OG がこういう同窓会において交流を深められまして、それを糧に社会でご活躍されるということはそれがそのまま名古屋工業大学のステータスの向上につながると認識してございます。特に最近の学生さんが同学年の横のつながりはともかくとして、縦のつながりを構築するということに少し弱いと感じることが多いということで、こういった計測会のような同窓会が若年層の学生さんをはじめ、若い方々の縦のつながりの強化に役立って、将来への人脈作りに利用していただければと考えております。さて、本学の状況について、いくつかトピックスでお話しさせていただきたいと思っております。1つ目ですが、今年の 1 月に能登地方で大きな震災がございましたが、本学の北川啓介教授が発災後にすぐに被災地に出向きまして輪島市と連携して、この教授が開発された簡易住宅、インスタントハウスと申しますけれども、これを被災地に届けるなどの活動をされております。インスタントハウス自体は正門を入れて右手側にいくつが設置されておりますので、ご覧になることができるかと思っております。その後、大学基金にてこういったインスタントハ

ウス設置支援の寄付が集まりまして、本学職員を派遣するなど継続的に支援の取り組みを行ってまいりました。

2 つ目ですけれども、すでにご存知かと思いますが、この 3 月末を持ちまして、前任の木下隆利学長がご退任をされまして。4 月より小畑誠学長が新たに就任をされ、新体制でスタートをしてございます。また同じ 4 月に大学院で若干組織替えがございました。1 つは大学院博士後期課程にジョイント・ディグリープログラムを設置したこと、これはドイツのエアランゲンニュルンベルク大学との連携のジョイント・ディグリーになります。工学系の分野では、日本国内では初のジョイントディグリーということになります。本学でこの連携コースに入学された場合には 1 年間は相手方のドイツのニュルンベルグ大学の方で研究をしていただくというような取り組みになってございます。

また大学院博士前期課程におきましても、工学専攻の中に従来のプログラムに加えて、未来通信プログラム、カーボンニュートラルプログラムと医学工学プログラムの新しいプログラムを設置しております。いずれも複数の分野にまたがった。複合領域における教育研究を実施するプログラムとなっております。産業界あるいは社会が必要とする人材育成に対応するなど、今後もこのような取り組みを進めてまいり所存でございます。

以上、最近のトピックスをいくつかご紹介させていただきましたが、社会でご活躍の OB、OG は本学にとっては大切なステークホルダーでございます。今後とも名古屋工業大学のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に計測会の皆様のみすますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。続きまして名古屋工業大学物理工学科応用物理分野長、渡邊様よろしくお願いたします。



(渡邊先生)

皆様、こんにちは。応用物理分野の分野長を拝命しております。渡邊と申します。今日は計測会総会に寄せまして、現在の応用物理分野の近況並びに計測会の OBOG の方へのお礼を申し上げたいと思ひまして、このようなスライドを急遽作成してまいりました。
<スライド 1 >

先ほど会長の寺倉様からお話がありましたが、応用物理分野というのは、ルーツをたどっていきますと計測工学科に打ち当たるということになります。そこから生産システム工学科になりまして、私がちょうど着任したのが、この生産システム工学科がちょうど終わって、機械工学科に移るぐらいのタイミングだったと思いますが、そして2016年、もう約十年前になりますが、物理工学科が立ち上がり、そこで応用物理分野という中で、計測の教員の多くが活動してきているという状況になります。先ほど井門理事からも説明がありましたが、2024年度よりは応用物理プログラムあるいは一部の教員はカーボンニュートラルプログラムを兼任し、教育研究活動にあたっていくということになっております。次のスライドをお願いします。

<スライド2>

応用物理分野というのはどういう分野なのかといいますと、革新的な材料であるとか、実用的なデバイスやシステムというものを創生することで、21世紀の人類の課題であるエネルギーや環境問題の解決を目指し寄与する人材を育成していこうということで、幅広いスケールにわたる物理の基礎というのを非常に大事にしている分野であります。

扱う対象としては、ナノからマクロまで、原子分子スケールから地球規模スケールまでの中で生じる現象を扱ってその要素を技術というもので開発していくと、物理工学は材料というのが一つの大きなキーワードになっております。したがって材料の構成とか応用技術というものを開発して展開していくということを大きな目標に掲げて研究教育を行っております。

<スライド3>

現在の近況ですけれども、卒研究生が正確ではないかもしれませんが55名、大学院の博士前期課程に75名。後期課程に6名在籍しております。

大きく変わったのは昨年度からです。大学入学共通テストを課さない学校選抜入試が開始されました。他の学科ではすでにやっていたことですが、物理工学科でもこういった選抜入試が開始されました。いわゆるこれは女子推薦と言われているもので、女子学生を学校選抜で募集しようということを昨年度から始めております。

教員ですが、現在教授が6名、准教授12名、助教3名という体制になっております。特に非常に大きな変化としましては、今年の3月に計測の時代からずっと我々の分野を支えてこられた種村先生と市川先生がご退職されたということです。我々の分野としても非常に現在、分岐点、岐路に立たされている状況にあらうかと理解しております。

また一方で昨年の10月に宮本先生がご着任されまして、まだ若い優秀な光物性と実験をされている先生なんですけど、名工大に早速馴染まれて研究教育活動を活発に担っていただいています。

<スライド4>

次に社会に羽ばたく卒業生ということで、今年の3月に卒業しました学生の就職先について簡単に紹介しておきます。この地域の特徴ではありますが、やはり自動車機械産業へ

の多くの学生が入社しております。昨年度もそうです。今年度のデータはまだ集計されてませんが似たような状況だというふうには聞いております。学生にとって非常によい状況で、就職に関しては非常に満足 of いくような形で活動できているのではないかと考えております。

<スライド5>

産業界で活躍する先輩は非常に多くおられますが、アカデミアでも当然活躍されてる先輩はたくさんいらっしゃいます。その中でも最近若い方で活躍されている計測 OB の方がいらっしゃるのので、紹介したいと思います。有馬隆司先生といいます。まだ 40 才前の若い先生で、ちょうど 2013 年に博士後期課程、当時の創生シミュレーション工学専攻というのがあるのですが、機械工学科の時代に機能工学専攻と創生シミュレーション工学専攻に分かれた時期があり、その時期に学位を取られて、現在苫小牧高専で准教授として働いております。

彼は杉山勝先生の研究室の出身でちょうど去年、日本流体力学会入門賞という流体力学会という非常に大きな学会なんです、その若手登竜門の学会賞を受賞されました。また JST(科学技術振興機構)に戦略的研究推進事業がありますが、それに採択されるというような非常に大きな研究成果をあげておられます。私は昨日まで学会で仙台にいたのですが、ちょうど一昨日に彼とお会いして、いろいろお話をしました。そのときに計測会があるから紹介しようと思ひまして、こういうお話をしている次第です。

我々の分野で学位をとって、アカデミアで活躍するような卒業生の OBOG がいるのですね。我々としては多く輩出できたらいいなと思った次第であります。次にこれも先ほど寺倉様からご紹介いただいた海外研究発表への支援金に関してです。2023 年度は吾妻さんがいただきまして、本人のその寄稿文を読ませていただいて非常に意義深いと思ひました。2024 年度も引き続き募集をかけていきます。残念ながら、前期は募集がなかったのですが、後期では広く認知させ、広く募集をかけて多くの学生がこの支援を受けられるようにということで尽力して参りたいと思ひます。次に計測会賞に関しましても、先ほど寺倉様からご紹介いただいた通りです。ちなみにこの坂本君は、私の研究室の学生で、あの受賞が終わった後に彼といろいろ話をしました。彼は非常に受賞したことを喜んでいまして、ご両親にもこのことをしっかり伝えてくださいと私の方から彼にお願いしたところです。あと、卒業祝賀会への支援もいただきおりました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思ひます。卒業祝賀会は卒業式の後に浩養園で行わせていただいたんですが、この祝賀会は相当久しぶりに開催されました。コロナになる前からの 4、5 年ぶりぐらいだったと思ひます。久しぶりに開催することになりました。この年の卒業生は、コロナ禍に非常に翻弄された学年だったのですが、こうやって多くの皆さん方で集まって大いに語り合うとかでき、非常によい機会だったと考えております。

以上が私の挨拶ということになります。今後とも応用物理分野への支援をこれまでの支援に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援のほどどうぞよろしくお

願ひ致します。ありがとうございました。

(司会)

続きまして活動報告です。野村さんよろしく願ひいたします。



(副会長 野村)

すみません。ズームの操作をしながらやっていたので登壇が遅くなりました。昭和55年卒の野村と申します。活動報告ということで発表します。資料の上半分が過去1年の活動実績で、下半分がこれから1年の計画になっています。

上の方の1番目としまして、2023年度の計測会総会講演会をちょうど1年前の9月30日に行っております。2番目としましてメールマガジン、計測会報といったものを発行しております。昨年11月、12月と今年の4月に発行しております。3番目としまして計測会ホームページへの新規コンテンツの掲載ということで、昨年度の総会講演会の報告、あるいは講演録といったものをホームページに載せております。昨年は計測工学科OBのトヨタ自動車の情報システム本部長の日比様に御講演をいただきまして、その時の講演録をホームページの方に載せております。それから会員からのご寄稿をいただいたのが3件、学生さんからの寄稿2件ですね。このうち1件は先ほどの海外の研究発表していただいた方からの寄稿です。それから4番目としまして、これも先ほどありました計測会賞授与です。卒業式の日には学部の成績優秀者の方に授与しております。これは毎年恒例になってますけど、ネーム入り的高级ボールペンをお贈りしております。いくらするかは、後ほど会計の方から発表があります。5番目としまして、計測会の紹介パンフレットを同じく卒業式の日には学部の卒業生の方に配布して、入会をアピールしております。今年は学部卒業生9名の方からメールアドレスの登録の依頼がありました。6番目ですが、これも先ほどありました海外の研究発表への支援金制度というのを昨年度より実施して1名の方に授与致しました。内容は先ほどの通りで、準備金として5万円を支給するというものです。7番目としまして、本日の2024年度の計測会総会を本日実施しております。下の方へ行きまして来年度の活動計画ですが、内容はほぼ一緒なんですけど、1番目としまして、来年度も今回と同様、総会講演会をオンライン併用で開催します。2番目として、ホームページを活用して会員間の情報交流を進めます。最近ちょっと会員の方からの寄稿が減ってきてますので、コロナも明けていろいろ同期会を行っているという話を聞きます。ぜひ同期会の報告とい

う形でご寄稿をお願いしたいと思います。簡単な文章と写真を送っていただければ、私の方で原稿を作成しますのでよろしく申し上げます。3番目としてメールマガジンですね。これも年3回ぐらいは出したいと思っております。4番目として学生への貢献支援活動ということで、計測会賞の授与から講演会については、学生さんができるだけ興味を持てる夢のあるテーマにしていくことと海外研究発表者への資金補助です。5番目ですが名古屋工業会の季刊誌「ごきそ」というのがありますけども、基本的に毎号計測会役員の誰かが寄稿するというようにしております。今年から年4回出るようになったということで今年の秋号が10月に出版しますが、先ほどの海外の学生さんの海外研究発表支援の実績について寄稿してあります。こちらの方もご覧いただければと思います。以上です。

(司会)

ありがとうございます。続きまして決算報告です。会計の西村さんと会計監査の守田さんよろしくお願い致します。



(会計 西村)

計測会会計担当の西村です。2023年度の会計報告と2024年度予算案を説明させていただきます。2023年度はコロナによる外出自粛も解けまして、計測会総会を一昨年と同様、ズームと対面の両方で開催しました。遠方からのご参加もいただけて、また4年ぶりに総会、講演会の後に懇親会を開き、28名の会員の皆さんにもご参加いただきました。また、一昨年に続きまして、皆様に運営協力金のご寄付をお願いしまして、51名の方から338口のご寄付をいただきました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございました。支出の部では昨年度から理工学科の学生支援としまして、新たに海外研究発表に対して2名年間10万円をマックスとする支援金を贈呈することとしまして、前期に1名の方に5万円を支給しました。その結果、収入は2022年度からの繰越金832,609円と運営協力金の338,000円、それから工業会殿からの支援金50,000円で計測会の懇親会収入114,000円、普通預金の利息8円を合わせまして、繰り越し832,609円、収入502,008円、あわせまして収入が1,334,617円、支出は321,222円ということで今年度2024年度への繰越金は1,013,395円となります。

会計監査に関しましては守田さんお願いします。

(会計監査 守田)

守田です。ただいま西村さんから報告がありました2023年度の決算報告につきまして、帳簿と領収書等に基づいて監査した結果、会計基準に則り、適正に処理されていることを確認いたしました。ここにご報告申し上げます。

(会計担当 西村)

ありがとうございました。続きまして2024年度の予算案について説明させていただきます。収入の部は前年度からの繰越金1,013,395円に加え、運営協力金を200,000円見込んでおります。また、名古屋工業会からの支援金が50,000円いただけるものと予定しております。また懇親会がこの後開かれます。懇親会の会収入として120,000円を合わせまして1,383,395円を想定しております。支出の部としましては総会、講演会、懇親会の費用としまして、260,000円、理工学科の学生支援費用としまして135,000円、支部への支援金20,000円、遠方の役員の役員会へ出席旅費が40,000万円、それからホームページサーバーの維持費17,000円ということで小計は472,000円ということです。2025年次年度への繰越金は911,395円を見込んでおります。

ここで次に繰越金の年次推移を示したグラフでございます。去年一昨年までずっと減っていくという状況でございましたが、一昨年の総会の時に、皆さんに運営協力金のご寄付をお願いしました。ちょっとずつ増えてきてまして、2024年度の繰越金は1,013,395円となっています。だいたいこのレベルをこれからも維持していけば、理工学科の学生さんへの支援など十分続けていけるだろうと思っておりますので、ぜひ今年も運営協力金のご寄付をお願いしたいと思っております。これが運営協力金の振込先です。これを見てもすぐ皆さん覚えられないと思いますので、計測会の報告の方に載せてあります。三菱UFJ銀行の鶴舞支店の方に振り込んでいただくとありがたいと思います。一口1000円として3口以上の寄付をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。以上でございます。

(司会)

はい、ありがとうございました。ご質問ありますか。どうでしょうか。ないようですので、これで決算の報告は終わります。

続きまして役員紹介です。寺倉さんよろしくをお願いします。

役員の方は全員壇上に上がっていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

(寺倉)

役員をご紹介します。役員は先ほど挨拶で言いましたように、全員で12名でございます。

ただ、役員というより、世話人と言った方がいいと思うんですね。計測会の運営を担っている世話人でございます。定期的に 4、5 回役員会を持って、年度の運営を進めております。あとですね。あのここにはいませんが、ズームで大阪に坂尾さん、東京に小川さんという役員がおります。この 2 名と私も含めて 12 名で計測会をこれからも担ってまいります。計測会を進めていくためには、この役員だけではなくて今日ご参加のそれからあいにくご参加されていない会員の皆様のご支援が何よりも大切でございます。これからもどうぞ計測会へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(司会)

最後になります。スピーチを元学長の鶴飼先生をお願いします。



(来賓 鶴飼先生)

皆様こんにちは。名古屋工業大学によろしくお会いできました。ありがとうございます。といっても私はここを離れて今年で 4 年 5 ヶ月になります。まずは計測会の皆様には日頃から母校に対して大変、支援をいただき、かつてここにおりましたものとして厚く御礼申し上げます。それから計測会の OB としては、寺倉会長をはじめ、今登壇されました。役員の皆様には本当に会の維持と運営にかかわりありがとうございます。計測という名前を消したのは何を隠そう私でございます。その時に守田さんとか、大鹿さんとか寺倉さんとかいろいろな OB の先輩の方々にきつく言われまして、計測会をどうするんだと。実は計測という枠はもうすでにずっと前からなくなってまして、それをどうやって学生に伝えていくかっていうことが問題だとお伝えしました。その計測の枠の流れを受けたのが物理工学科ということですので、物理工学科の学生を計測として位置づけていろいろ学生に対してご支援をいただいた。それが継続的に進んでいけば計測という名前が再び根付いていくのではないかなと勝手に思い込みまして、先輩方を説得して計測会を維持していただいております。そして皆様のご尽力で学生に支援が届いております。本当にありがとうございます。私はここを辞めてからも私立大学に移りまして高等教育といいますが大学教育にいろいろ携わっております。昨今、いろんな問題が国立大学を取り巻く中心であると思っております。今日、久しぶりに井門先生にお会いしましたが「お元気ですか、だいぶお疲れではないですか。」本当に大変だと思います。「もう国立大学は限界を超えた」と言って、国

立大学協の会長さんが言ってましたが、実は10年ぐらい前から限界だと言いつけていたのですけれども、もうとにかくは限界ということです。これから本当にOBの方にもいろいろご意見を賜るような、そういう動きが大学の中から出てくるかと思います。その際、暖かくそして厳しく母校を見守っていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

今日は本当は隠れていたんですけども一言挨拶申し上げました。本当にありがとうございました。失礼いたします。

(司会)

ありがとうございました。総会のプログラムはこれで全て終了いたしました。

以上で計測会総会を終了いたします。

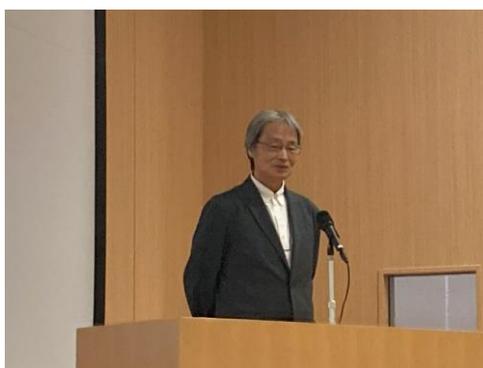
このあと3時から講演会を開始いたしますので、それまで休憩といたします。

ありがとうございました。

-----講演会後の閉会挨拶-----

(司会)

それでは閉会の挨拶を大鑄先生、よろしく願いいたします。



(大鑄)

それでは2時から始まりました総会、講演会と続き予定していた行事はあとただ一つ重要な行事が残っています。ビールを飲むということです。それ以外はつつがなく終えることができました。本日はお忙しい中、計測会の総会にご出席をいただきまして誠にありがとうございました。総会では前年度の事業実績、会計実績などの報告がありましてすべて認めていただきました。また今年度の予算案および事業案についても皆さんにご承認をいただきました。そしてその総会に引き続きまして、市川先生の特別講演をいただきました。実はですね私、市川先生にお会いするのは約9年ぶりです。非常に懐かしくお話の方も非常に興味深いお話でした。特に最後の計測とはなんぞやというところでは非常にインスパイアされるお話をいただき市川先生本当にどうもありがとうございました。

それとともに来賓の井門先生それから渡邊先生にもご挨拶をいただきました。どうもあ

りがとうございました。それではこれからさらに一年間、今日ご承認をいただきました事業案および予算案に従いまして、また計測会としての活動に邁進をしていきたいと役員一同、思っております。皆さまにも色々ご協力やご指導をお願いするかもわかりません。その節にはよろしく願いをしたいと思えます。

最後に「NIT」です。この話、何の話かだいたい想像つくという人、ちょっと手を挙げていただけますか。ほとんど皆さんご存じないんですね。「NIT」というのは Nagoya Institute Technology ということだよねとか、NをMに置き換えれば「MIT」だよねというような話は多分おそらく皆さんよくご存知だと思いますが、今からご紹介するのは工業会の横山理事長のアイデアです。「NIT」には別の意味合いがあるんだというふうにおっしゃってました。それを私は初めて聞いた時に非常に衝撃を受けました。Nは何を意味するかそれは「仲間」、Iは何を意味するかそれは「いつまでも」、Tというのは何を意味するかそれは「共に」ということです。ですから、「NIT」というのは「仲間いつまでも強くつながっていこう」という意味合いを持っているそうです。計測会も上から下まで強いつながり、絆の下で活動が続けていきたいと思えます。一年後また元気な姿でお会いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(司会)

大鑄先生ありがとうございました。それではこれにて2024年の計測会総会と講演会を終了といたします。皆様、本当に参加ありがとうございました。